

専 門 教 養
令和 7 年 7 月
60分

受 験 教 科 等
特別支援学校 自立活動

## 注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、11ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に、**必要事項が正しく記入・マークされていない場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号**を記入し、**受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名**を記入してください。ただし、【3】の**選択問題を表す欄のマークは不要**です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

## 解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。各問に対して、正答は一つだけです。**各解答欄に二つ以上マークした場合は誤り**とします。
- 2 「解答番号は 1。」と表示のある問に対して、**3**と解答する場合には、次の(例1)のように解答番号 1 の解答欄の③にマークしてください。

(例1)

解答番号	解答欄
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。



**1** 次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領特別活動に関するものである。記述中の空欄 **ア** ~ **ウ** に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の 1~4 のうちのどれか。解答番号は **1**。

小学部又は中学部の特別活動の目標、各活動・学校行事の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取扱いについては、それぞれ小学校学習指導要領第6章又は中学校学習指導要領第5章に示すものに準ずるほか、次に示すところによるものとする。

- 1 学級活動においては、適宜他の学級や学年と合同で行うなどして、少人数からくる種々の制約を解消し、活発な **ア** が行われるようにする必要があること。
- 2 児童又は生徒の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育むために、**ア** を通して小学校の児童又は中学校の生徒などと **イ** を行ったり、地域の人々などと活動を共にしたりする機会を積極的に設ける必要があること。その際、児童又は生徒の障害の状態や特性等を考慮して、活動の種類や時期、実施方法等を適切に定めること。
- 3 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に **ウ** を定め、具体的に指導する必要があること。

- |   |                |                   |                   |
|---|----------------|-------------------|-------------------|
| 1 | <b>ア</b> 集団活動  | <b>イ</b> 交流及び共同学習 | <b>ウ</b> 指導の重点    |
| 2 | <b>ア</b> 集団活動  | <b>イ</b> 指導の重点    | <b>ウ</b> 交流及び共同学習 |
| 3 | <b>ア</b> 指導の重点 | <b>イ</b> 交流及び共同学習 | <b>ウ</b> 集団活動     |
| 4 | <b>ア</b> 指導の重点 | <b>イ</b> 集団活動     | <b>ウ</b> 交流及び共同学習 |

[問 2] 特別支援教育に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 特別支援学校には、幼稚部、小学部、中学部及び高等部を置かなければならないが、特別の必要のある場合においては、そのいずれかのみを置くことができる。
- 2 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校においては、疾病により療養中の児童及び生徒に対して、特別支援学級を設けることはできないが、教員を派遣して教育を行うことができる。
- 3 特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。
- 4 特別支援学校の幼稚部の教育課程その他の保育内容、小学部及び中学部の教育課程又は高等部の学科及び教育課程に関する事項は、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準じて、各都道府県の教育委員会が定めるため、文部科学大臣は定めることはない。

[問 3] 障害者の権利に関する条約の第二条に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 「意思疎通」とは、言語、文字の表示、点字、触覚を使った意思疎通、拡大文字、利用しやすいマルチメディア並びに筆記、音声、平易な言葉、朗読のことであり、その他の補助的及び代替的な意思疎通の形態、手段及び様式は含まない。
- 2 「障害に基づく差別」とは、障害に基づくあらゆる区別、排除又は制限であって、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のあらゆる分野において、他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を認識し、享有し、又は行使することを害し、又は妨げる目的又は効果を有するものをいい、あらゆる形態の差別は含まない。
- 3 「合理的配慮」とは、障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課すものをいう。
- 4 「ユニバーサルデザイン」とは、調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人々が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう。ユニバーサルデザインは、特定の障害者の集団のための補装具が必要な場合には、これを排除するものではない。

[問 4] 視覚器の部位に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 角膜は、直径約10～12mm、厚さ約1mmの円柱状の膜である。眼球の外層である眼球線維膜の前6分の1の部分である。
- 2 虹彩は、水晶体の前方に伸びる膜状組織で、眼内に入る光の量を調節する。虹彩の中央の開口部が瞳孔である。
- 3 毛様体は、内部に毛様体小帯を有し、毛様体筋と呼ばれる細い糸が出て、水晶体に付着している。
- 4 水晶体は、直径約9mm、厚さ約4～5mmの透明な凹レンズで、水晶体の厚さが変わることによって焦点距離が変わり、遠近調節が行われる。

[問 5] 聴覚障害のある児童・生徒に対する指導内容に関する記述として、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 令和3年6月)に照らして適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 聴覚障害のある子供にとって、話し言葉を聞き分けたり、明瞭に発音したりすることは、困難性が低く、補聴器等の性能の向上、人工内耳の普及、早期からの教育的対応の効果により、聴覚活用の可能性が広がっている。
- 2 言葉の習得は、単に名称を理解することだけでなく、人との関わりを深めることや、知識の習得や思考力の伸長などにつながるため、子供の発達の程度に応じた段階的な言葉の指導が必要である。
- 3 聴覚障害のある子供の場合、視覚的な手掛かりを中心に判断することがある。このため、相手の言動や起こった出来事の流れに関係なく、相手の意図や感情などを判断することを指導する必要がある。
- 4 補聴器や人工内耳を装用していれば、音や音声を完全に聞き取れるので、補聴援助機器を活用して聞き取りやすくするといった補助手段の活用に関する指導は必要ない。

[問 6] 知的障害のある児童・生徒に対する指導の形態に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 遊びの指導は、衣服の着脱や食事、排泄、手洗いや洗面などの衛生面での生活動作など、ADLを扱うことに強みを発揮する指導の形態である。特に、学校での生活の中で自然な形で学習課題を組み込むことが求められている。
- 2 生活単元学習は、特に就学前の時期からの学習経験を小学部以降の学校生活につなげる上で、遊びを中心とした指導の形態である。特に、身体活動を多く取り入れた遊びや、人間関係の形成を主なねらいとした遊びの指導を計画することが求められる。
- 3 日常生活の指導は、子供の生活課題を解決することなどをねらいとして、その単元で扱うテーマのもとに、生活に即したさまざまな学習課題を関連付けて展開する指導の形態である。児童・生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。
- 4 作業学習は、作業活動を中心として、働く意欲や将来の職業生活、社会自立などをテーマとして学習を展開する指導の形態である。作業学習で扱われる作業活動の種類としては、農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニング、事務、販売、清掃、接客などがある。

[問 7] 肢体不自由のある児童・生徒に対する摂食指導に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 体幹と頭部を安定させ、各部の関節を適度な角度に屈曲させ、リラックスした姿勢をとる。
- 2 未定頸で摂食嚥下機能の未熟な子供は、体幹を倒したほうが摂食指導を行いやすい。体幹の角度にかかわらず、頸部は軽く後屈した姿勢をとる。
- 3 椅子座位で自食する場合は、机の高さは、胸よりも上の位置とする。
- 4 椅子座位で自食する場合は、椅子に座ったときに、腰、ひざ、足首は90度に曲がった状態で、足底を床から浮かせるようにする。

[問 8] 疾病に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 気管支喘息とは、発作的な気管支の狭窄による呼吸困難を繰り返す疾患である。呼吸困難症状には咳嗽、喘鳴などがある。治療薬として、吸入ステロイド薬がある。
- 2 血友病とは、血液凝固因子の過剰による血液凝固障害、出血傾向をきたす疾患である。症状は皮下出血、口腔内出血、関節内出血などの出血症状である。治療は、血液凝固因子を、注射薬によって定期的に補充することであり、通常生涯にわたって必要である。
- 3 てんかんとは、発作的に脳の神経細胞に異常な電氣的興奮が起こり、その結果、意識、運動、感覚などの突発的な異常を来す病気である。発作は、脳全体が異常興奮する部分発作や、脳の一部が興奮して起こる全般発作がある。治療は、薬物療法が主体であり、抗てんかん薬の服用により、発作をコントロールする。
- 4 ネフローゼ症候群とは、大量の蛋白尿により血清蛋白が減少する疾患で、むくみを認めることが多い。小児では特発性ネフローゼ症候群が90%を占め、原因は不明である。好発年齢は3～6歳の幼児期で男子に多い。治療薬として、ステロイド薬が有効であり、一旦寛解すれば再発を繰り返すことはない。

[問 9] 次の記述は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領自立活動の「内容」の「健康の保持」に関するものである。記述中の空欄  に当てはまるものとして適切なものは、下の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
- (2)
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。
- (5) 健康状態の維持・改善に関すること。

- 1 情緒の安定に関すること。
- 2 身体の移動能力に関すること。
- 3 病気の状態の理解と生活管理に関すること。
- 4 言語の形成と活用に関すること。

[問10] 視覚障害のある人の歩行に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。

解答番号は  。

- 1 視覚障害者誘導用ブロックには、2種類の形状があり、細長い突起を並べたものを警告ブロック、丸い突起を並べたものを誘導ブロックという。誘導ブロックは、道の分岐点や階段が始まる場所、交差点などに敷設し、何か変化があることを警告し、注意を喚起するものである。
- 2 音響信号機は、視覚障害のある人が安全に道路を横断できるように、歩行者用信号が青信号の際に音を発して、横断のタイミングを知らせる装置である。
- 3 白杖は、視覚障害者であることを周囲に知らせたり、障害物を把握したりすることができるが、路面の変化の把握はできない。
- 4 ガイド歩行では、視覚障害のある人に、誘導者の肘関節の少し上を軽くつかんでもらい、誘導者は、肩や肘の力を抜き、腕は自然に下へ伸ばして歩く。誘導者は、視覚障害のある人の半歩後ろに位置する。

[問11] 視力検査に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は

。

- 1 ドットカード法とは、動物の眼の存在を確認できるかで見え方を確認する方法で、眼の大きさが1枚1枚違っているカードを示し、眼の存在について聞き、その反応をみる検査方法である。これは最小可読閾の測定となっている。
- 2 我が国では、標準的な視力検査ではランドルト環という視標を用いる。外径7.5mm、切れ目の幅1.5mmのランドルト環を5mの距離から見たとき、その切れ目の幅の視角が1分となるので、これを識別できる場合、視力0.1とする。
- 3 絵視標とは、生物のシルエットが描かれた視標で、何が見えるか答えればよいので、幅広い対象に実施可能である。
- 4 縞視力とは、どれくらい細かい縞まで見ることができるかで視力を確認する方法で、乳幼児が、二つの画を同時に提示されると、より複雑ではない方をみてしまうという特性を利用している。

[問12] 日本語の点字の学習に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 点字の分かち書きは、名詞、形容詞、動詞などの自立語は前で区切って書き、助詞や助動詞は前の語に続けて書かないことを原則としている。
- 2 点字は、現代仮名づかいに準じて書き表すが、点字特有の規則もあり、助詞の「は」は発音どおりに「わ」、助詞の「へ」は発音どおりに「え」と書き表す。
- 3 点字の凸面は読む側であり、原則として両手でなぞりながら、右から左に向かって読む。
- 4 点字で文章を書く際は、文章の書き始めや段落は2マス目から書く。

[問13] 聴覚障害のある児童・生徒に対する言語指導上の配慮に関する記述として、「聴覚障害教育の手引 言語に関する指導の充実を目指して」（文部科学省 令和2年3月）に照らして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 乳幼児期においては、聴覚障害児の場合、音声の正確な受信に困難や制約が生じるため、言語や情報を音声等の聴覚的情報に限定して、コミュニケーションの意欲を育むことが大切である。
- 2 小学校段階の聴覚障害児の文字の学習においては、「来」という漢字を学習して書くことができると、「来ない」を「きない」と読んでしまうことはないため、聴覚障害児の場合、書き方が身に付くよう、保有する聴覚を活用したり、発話をしたり、指文字や文字で確認をしたりするなどの配慮が必要である。
- 3 小学校中学年頃から、授業で使われる言葉は、量・質ともに大きく変容し、「学習言語」が中心の学習から「生活言語」が中心の教科学習に移行する。間接的・抽象的な学習が減り、直接的・具体的な学習が増える。
- 4 語彙を増やしたり、抽象的な言葉を身に付けたりするためには、様々な場面や機会で、その言葉を見聞きする経験を積み重ねていくことが大切である。

[問14] 聴力検査に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は

**14**。

- 1 聴力検査では、音の強さを次第に弱くしていくと、聞こえる音が小さくなり、ついには、音が聞こえなくなる。この「聞こえる」と「聞こえない」の境目の音の強さを最小可聴値という。
- 2 語音聴取閾値は、あらかじめ決められた単音節リストを様々な音の強さで聞かせ、その明瞭度曲線を求め、最高明瞭度をパーセントで示したものである。
- 3 語音弁別能力は、数字リストを様々な音の強さで聞かせ、何パーセント正しく聞き取れたかを測定し、その明瞭度曲線を求め、この曲線が50パーセントの明瞭度を示した点の音圧をもって表示する。
- 4 平均聴力レベルは、オーディオメータで測定した各周波数の気導聴力レベルのうち、会話音域を代表する500Hz、1000Hz、2000Hzの値を、それぞれaデシベル、bデシベル、cデシベルとしたとき、 $(a + b + c) / 4$ で算出した値である。

[問15] 次の図は、耳の構造を模式的に表したものである。図中のアの部位の名称として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

図

- 1 耳管
- 2 蝸牛
- 3 ツチ骨
- 4 半規管

[問16] 車いすの介助の方法に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 段差を上がる時は、介助者は段差に対し、車いすを進行方向の正面に向け、直角に近づきとまり、キャスターを段の上に上げて、上る。
- 2 段差を下りるときは、介助者は段差に対し、車いすを進行方向の正面に向け、前向きでキャスターをゆっくり静かに下ろす。
- 3 急な上り坂の場合は、介助者は車いすを手前に引いて後ろ向きで進み、危険なので速く上る。
- 4 急な下り坂の場合は、介助者は車いすを押して必ず前向きで進み、介助者が前方の安全を確認して下りる。

[問17] 次の評価尺度の名称ア～ウと、評価尺度の内容に関する記述A～Cとの組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 粗大運動能力分類システム
- イ 粗大運動能力尺度
- ウ リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法

- A 生後6か月から7歳半までの子供たちを中心としたADLにおける能力評価尺度である。包括的な子供の機能評価法であり、機能障害と能力低下の両方を評価する。
- B 生活の基盤となるような粗大運動能力の経年的な変化をとらえるための評価尺度である。5領域・88項目の運動課題を4段階のスケールを用いて評価する。66項目に項目を絞ったものもある。
- C 移動能力及び座位能力を中心とした粗大運動能力を基にして、6歳以降の年齢で最終的に到達するレベルを5段階に分けて、重症度を分類しているものである。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| 1 | ア－A | イ－B | ウ－C |
| 2 | ア－B | イ－C | ウ－A |
| 3 | ア－C | イ－A | ウ－B |
| 4 | ア－C | イ－B | ウ－A |

[問18] 各行音の発音指導に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 サ行音は、破裂音であり、発音指導にはうがい法、タ行音誘導法がある。
- 2 マ行音は、摩擦音であり、発音指導にはストロー法がある。
- 3 カ行音は、通鼻音であり、発音指導には両唇閉鎖の指導、通鼻要領の指導がある。
- 4 ラ行音は、弾音であり、発音指導には調音点の指導で上顎の歯茎に舌尖をつける練習や無声で舌を弾く練習がある。

[問19] 次の疾患名ア～ウと、その症状に関する記述A～Cとの組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- ア ダウン症候群
- イ フェニルケトン尿症
- ウ 結節性硬化症

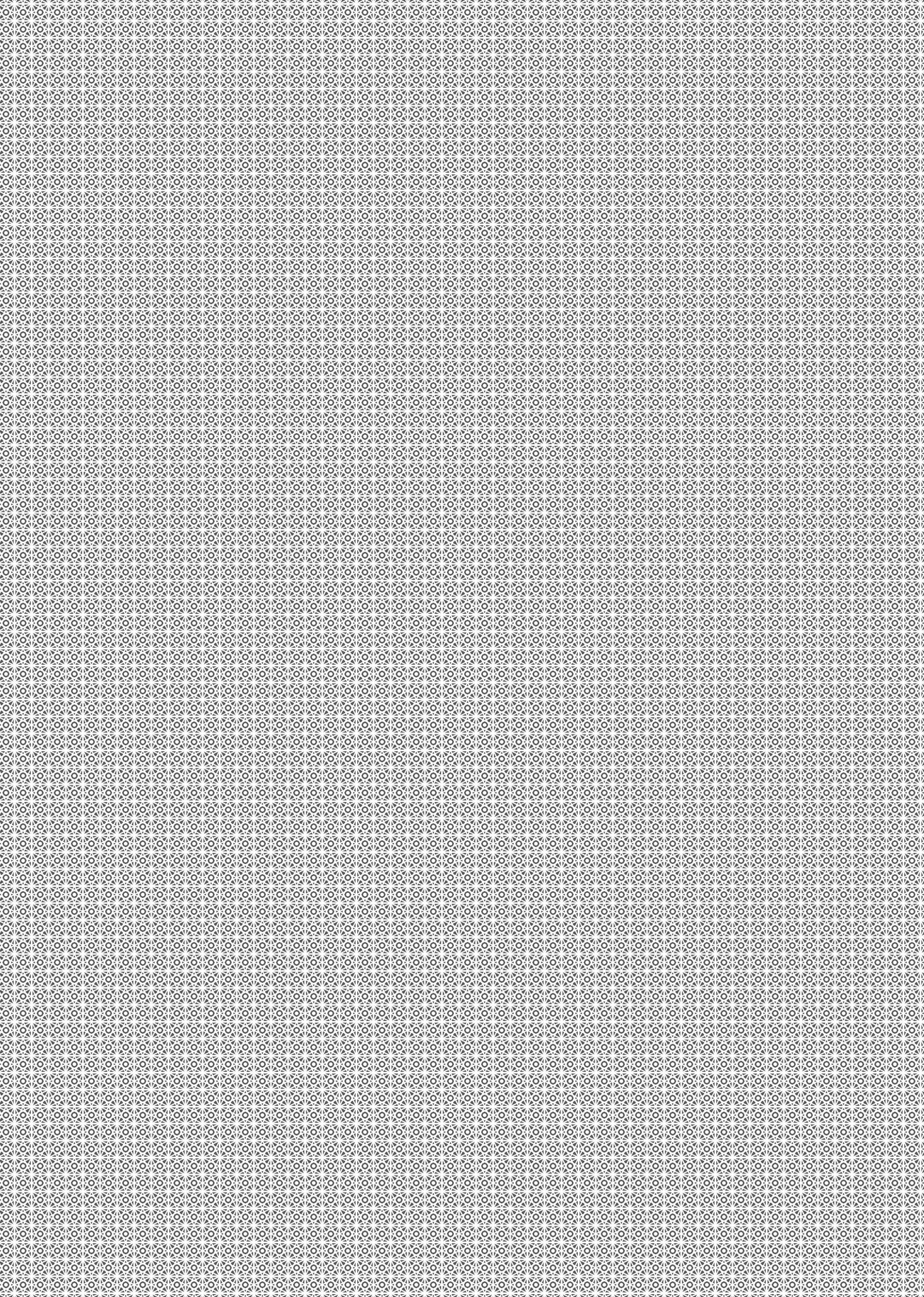
- A 精神遅滞、てんかん、顔面の血管線維腫を特徴とする。
- B 全身の筋緊張低下、低身長などの成長障害、精神遅滞を伴う。
- C 精神遅滞、尿臭、皮膚・頭髪色素の脱失をきたす。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| 1 | ア－A | イ－C | ウ－B |
| 2 | ア－B | イ－A | ウ－C |
| 3 | ア－B | イ－C | ウ－A |
| 4 | ア－C | イ－B | ウ－A |

[問20] 吃音のある児童・生徒への指導に関する記述として、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 令和3年6月)に照らして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 音読の場合、他者と一緒に声を合わせて読むなどの方法によって流暢性が得られることが多い。この方法で得られる流暢性は、一時的な体験にとどまらないため、流暢に話すことを強調し過ぎる必要はない。
- 2 苦手な場面や特定の語音に対する緊張を解消することは、子供の社会生活の充実やその自己実現を図る上で大切な指導であるため、自分が苦手な場面を想定して特定の語音を繰り返し練習したり、緊張の高い場面から低い場面へと段階的に練習したりする指導がある。
- 3 時に流暢でなくても、吃音がある子供が伝えようとしているメッセージを受け取ることや、話の中身に耳を傾けることなく、話し方を子供に注意することが必要である。
- 4 子供と教師との温かな人間関係の中で、自分自身や吃音について話し合うなどして吃音に向かい合い、自分の考えや見方を整理し、見直し、本来の自己を再発見することができるような指導が必要である。





3 問題文中の  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$  などの  $\boxed{\quad}$  には、数字又は符号 (-) が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1)  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号(-)のいずれか一つに対応します。それらを  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 $\boxed{234}$  に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
$\boxed{2}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{3}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{4}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$  などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$  のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\boxed{56}}{\boxed{7}}$  に  $-\frac{4}{5}$  と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$  として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
$\boxed{5}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{6}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{7}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 $\boxed{8.910}$  に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。